

## 【 . 通信の確立】

1. SDT-06 の RS-232C コネクタとパソコンの RS-232C コネクタを市販の “ RS-232C ストレート・ケーブル ” で接続する。
2. SDT-06 の電源スイッチを ON にした後、パソコンの電源スイッチを ON にし、「SDT-06 サポート・ソフト」(IMPULSE WAVE VIEWER) を起動する。

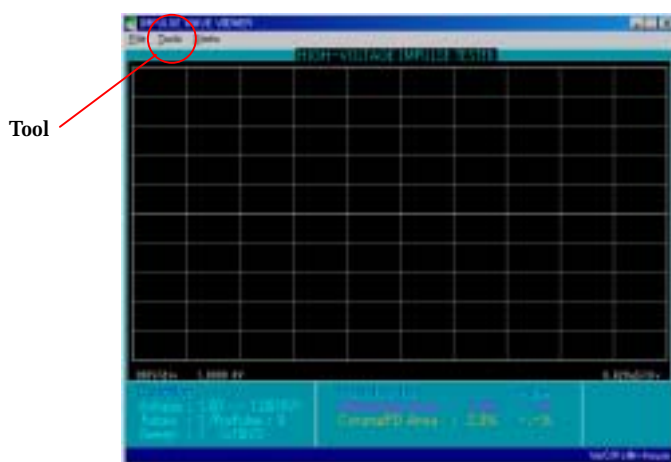


図 1

IMPULSE WAVE VIEWER の起動画面

3. SDT-06 で、マスタ・データをメモリに保存し、AUTO モードに切り替える。LCD 画面の右下にマスタ ID が表示されているのを確認する。
4. 次にパソコンで、「IMPULSE WAVE VIEWER」メニュー・バーの[Tool]をクリックし（図 1 参照）プルダウンメニューが表示されたら、「Download」をクリックする。「IMPULSE SERIAL COMMUNICATION」が表示される。

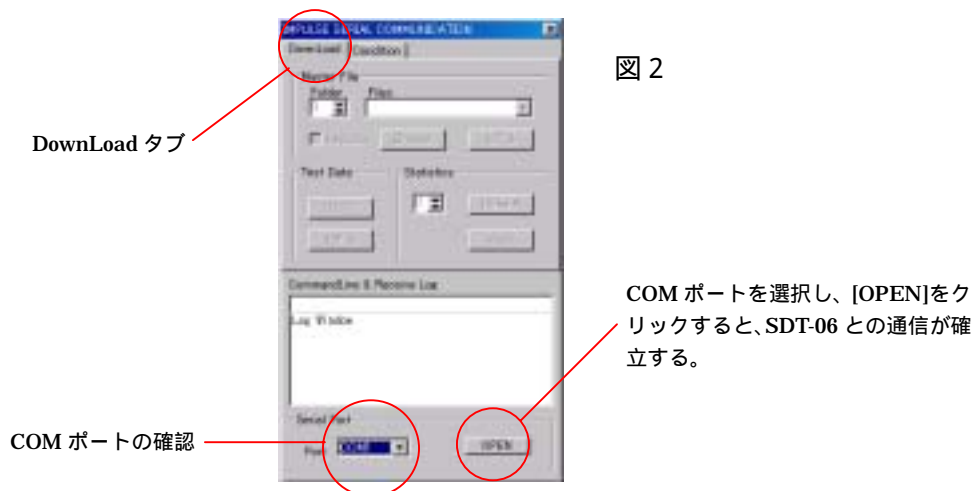


図 2

表示された「IMPULSE SERIAL COMMUNICATION」

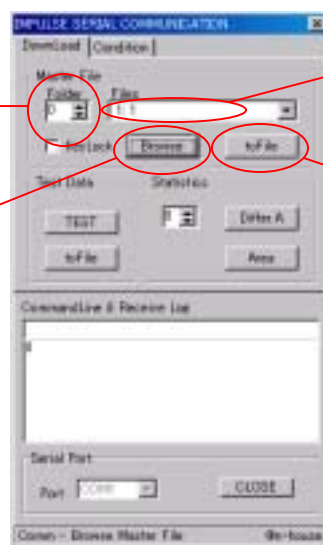
5. 「DownLoad タブ」が選択されているのを確認する( 図 2 参照 )。パソコン上で RS-232C が使用するポート ( 例えば COM1 など ) を選択し、[OPEN]をクリックする。SDT-06 との通信が確立すると、「IMPULSE SERIAL COMMUNICATION」上の文字が黒色に変わる。

## 【 . マスタ・データのダウンロード】

1. 下記の手順で、マスタ・データをパソコンにダウンロードする。
2. 「IMPULSE SERIAL COMMUNICATION」の「Master File」項で、Folder 番号がアクティブ・フォルダ ( 例えば”0”等 ) になっている事を確認し、[Browse]をクリックする。

0～14 までのフォルダのうち、0 番フォルダが選択されている状態。

[Browse]をクリックすると、Files 窓に SDT-06 の選択されたフォルダに保存されているマスタ・データのリストが表示される。



File 番号「1」、マスタ ID「1」が選択されているのが分かる。

ダウンロードするマスタ・データのフォルダ番号、File 番号 ( マスタ ID ) が選択されているのを確認し、[toFile]をクリックする。

図 3

3. 「Fils」窓に、現在のマスタ波形を選択し、[toFile]をクリックする。

4. パソコンの「WAVE VIEWER」にマスタ波形が呼び込まれ、青色で表示される( 図 4 )。同時に、「マスタ・データ保存」( 名前を付けて保存 ) が表示される ( 図 5 )。



図 4



図 5

5. 「保存する場所」および「ファイル名」を確認し、[保存]をクリックすると、マスタ ID に「MD」の拡張子が付けられ、パソコン内の選択したフォルダに、マスタ・データが保存される。

## 【 . テスト・データの保存】

1. 「DownLoad タブ」が選択されていることを確認する。「Test Data」項で[TEST]をクリックするとテストが実行され、パソコンの IMPULSE VIEWER には、SDT-06 の画面と同じテスト波形が表示される。



図 6

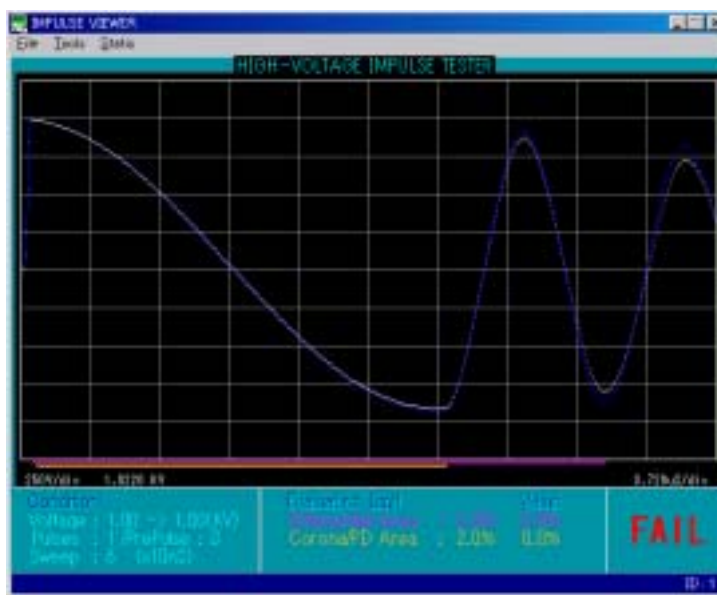
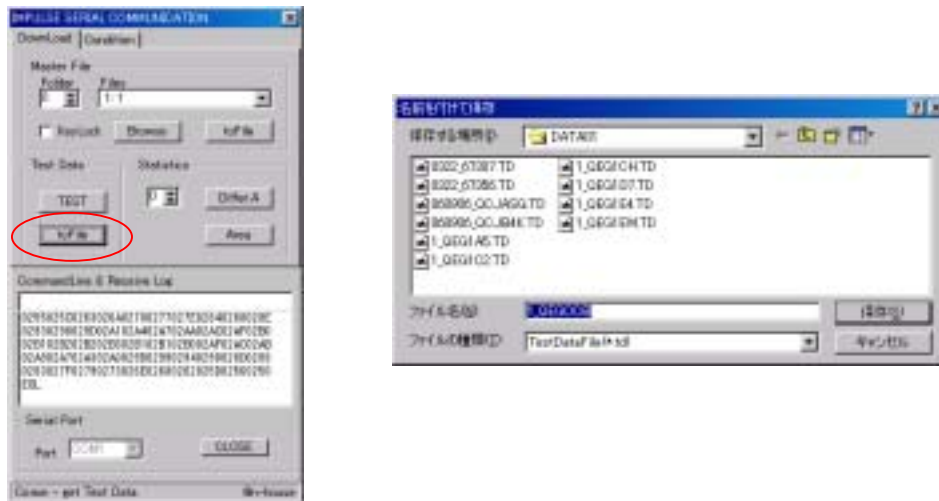


図 7

2. [toFile]をクリックすると、「名前を付けて保存」窓が表示される。File 名を確認し、[保存]をクリックする。



3. ファイル名は、マスタ ID の後に自動的に適当な番号が振られ、「TD」の拡張子が付けられて保存される。必要に応じて、ファイル名を変更する。

**【例】**

1\_QEG1A5.TD

1\_QEG1C2.TD

1\_QEG1CH.TD

自動的に付けられる「テスト・データ」(TD)を表す拡張子。(変更不可)

自動的に記号が割り振られる。

アンダーバーの前の文字(数字) 必要に応じ、管理しやすい名前に変更する。  
(この場合「1」)は、マスタ ID を表す。

**【注】**

名前を変更する場合は、マスタ・データ(MD)とテスト・データ(TD)の関係が管理できるよう注意を要する。

## 【 ．保存した波形を見る】

1. 「IMPULSE VIEWER」のメニュー・バー[File]から「Load Master」を選択すると、マスタ・データのリストが表示される。



2. 呼び出したいマスタ・データを選択し「開く(O)」をクリックすると、「IMPULSE VIEWER」に呼び出したマスタ波形が表示される。
3. 保存した「テスト波形」を表示するには、メニュー・バーの[File]から「Load TestData」を選択すると、テスト・データのリストが表示される。
4. マスタ・データの呼出と同じように、呼び出したいテスト・データを選択し、「開く(O)」をクリックすると、「IMPULSE VIEWER」にマスタ波形と重複して表示される。

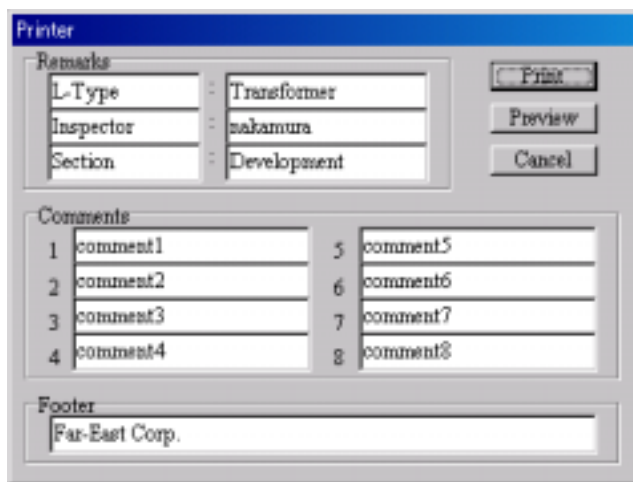
## 【 . 印刷】

「IMPULSE VIEWER」に表示されている波形を印刷するには、まず、「Printer Setup」を行う。[File]→[Printer Setup]をクリックすると、下記の「プリンタの設定」画面が表示される。



プリンタ名、プロパティ、用紙サイズなどを設定し、[OK]をクリックする。

[File][Print]をクリックすると、下記の「Printer」画面が表示される。



波形表示部分の上の部分およびフッター（社名など）は、必要に応じて書き換えて使用する。

### 【Remarks】

L-Type : Transformer 等

Inspector : 名前を入力する。

Section : 部署等を入力する。

### 【Comment】

1～8までのコメント（Comment）項目が用意されている。

### 【Footer】

社名などを入力する。

\*印加電圧、パルス数、プリパルス、スィープレンジ、マスタ波形面積、テスト波形面積、ラプラシアンエリア、ラプラシアンファクタ、差分面積設定値（判定値）、部分放電設定値（判定値）は、自動的に入力される。

